

青年僧よ 立ちあがれ、歩め!!

發行所
臨濟宗青年僧の会
發行人 藤原東演
〒420 静岡市御幸町11の4
TEL 0542-51-1312
〒振替 横浜 2-16960



事 *喝
記 *如の世界II
*生き活き寺院
な *投稿
主 *活躍している
グループ

▲老師、 青年僧に一喝を▼

眼を開いて現実を見る

世界は、今大変な時を迎えている。日本も今、明治維新の時と同じだ。北と南、東と西というように対立の世界から一つの大きなものに成ってゆこうとしている。白も黒もない、違いを越えた一つのものに向って進み、より良い世界を目指している。これを統一してゆくのが禅だ。世界が本当の禅を求めているのに、若い和尚に、チャラン・ポランが多い。何故かわかるか。

自分の未熟さを考える

三年や四年の僧堂の修行で住職したって、役に立たんのが当たり前だ。役立つと考える方がおかしい。どこの社会で、三年や四年の経験で会社なりの経営者に成れますか。そんな所ありやせんよ。もう少し、せめて十年位在錫してから寺に帰るべきだね。

竜沢寺の境内に杉や松が植えてあるが、一年や二年では、とても細くて使いものにならない。三年、五年たっても五寸角の柱は取れんよ。何十年もかかって、やっと細い柱ぐらいしか取れない。

今、信者の寄附で二百石程の杉、松をいただき、雲水総出で皮をむいて製材の作業をしているが、や

はり、自然に生かされて、骨折つて、四寸五寸の木になっている。使えるものになるには、それ相当の年月がかかる。玄峰老師や宗淵老師の代に植えられたものでも、三寸、五寸の柱は、とれない。その間、どれだけ多くの雲水が起単していったことだろう。

人材の育成は、並大抵でない

い 不断の努力の覚悟が必要



ゆるい気があれば
何とぞできる

竜沢僧堂師家

鈴木宗忠老師

確かに母親の胎内で育くまれた時から仏飯をいただいで来たといえ、長年月寺院生活をしているのだが、親の和尚自身が、喜んで住職を拜命していない。残念ながらこうした和尚が多い。

「この子はお坊さんにして、しっかり育てよう」という願心が和尚に少ないし、感謝を忘れて、「つまらん、つまらん」と言いながら住職している。仏心が無いんだ。

私は、口減らしの為に、縁あって、岐阜のお寺に、ほうり込まれた。

何度か逃げようかと思った。しかし、師匠に学校出してもらって一人おった。親戚の家に行つて女中やつた。小学校も卒業してない。それ聞いて、間違つた心を起してはいけない。この道を進むべきだと気がついた。十八才の時



だった。

○老師にとつて、苦しかったこと挫折感を味わつたこと、差しつかえなかつたら話して下さい。

生きようとして、生きられなかった。死のうとして死ねなかった。只、こうやって生きてきた。只自然に行くより他なかつた。只、コレ、コレ、だ。逃げちゃあいかんよ、逃げちゃあ。

雲水が育ち、住職するということは、何年もかかる。社会の人々もやはり、それぞれの分野で修行している。寺に帰つても衆生済度できないし、住職しても現実が眼に見えない。それにすら気付かない奴がいる。世間の人々が、馬鹿にする僧が多いのも無理ない。

元々力が無いのに、格好だけつけようとすると、終いにやあ自殺せにやあならんようになる。

○老師ご自身の経験をお聞かせくださいませんか。

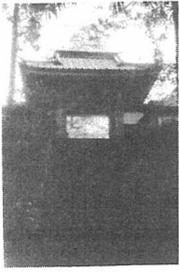
私の家は、財産皆喰われてしま

○未熟ながら実社会で現実と取り組んでいる青年僧に、一言アドバイスをしてください。

もう世に出てしまっている者は仕方ないけど、汗水垂らさじやあいかん。土方でもなんでもやる。その中で、自分を失わないことが大切だ。動中の工夫は、静中の工夫に優るといだろう。その中で相対してゆく力を身につける以外ない。書見もすれば、作務も大いにやることだ。

大自然の中に、生かされていることを忘れない。物を生かして使う。これを和尚が実践する。口先の言葉だけでは駄目だ。

昨年暮れに、充分使える量を、百八十枚いただいた。焼却するといふものを供養してもらったんだが、使えるものを捨てるというんだ。向うの新しい東司の便器も皆捨てたのを、もらって来て取り付けた。物のありがたさを、全く忘れてしまっている。感謝が判らんのだから仕方ない、生命がどれ程無駄にされていることか。消費が美德と言うから、わかってない。



○世の中全体が、そのような風潮で、和尚もその流れの中に入ってしまったていますが、

そんなもの逃げ口上だ。回りがぜいたくになったからとて流されることはない。生命を大切にしなければいけません。

欧米の現実もそう。神父が大眾と話し合う時、人々の悩める問題、苦しみに正確なアクションや答えが出来ない。それで人々が失望して坐禅を始めた。キリスト教でも教祖は行者だ。我々の宗教でも同じことだ。坐らにやあいかん、形だけの坐禅では駄目だ。本当に裸になつてやらんといかん。坐禅をしているという政治家が問題発言をして、世界中から批判され、ジャーナリストにまで批判されても僧侶は、一つも反論できなかったと聞いている。何もわかっておらん。元々わからんというのが答えだつたらどうする。ナッシングじゃ。

○具体的な実践方法の助言をして下さい。

すべての人々の様々な問題に、適切に答えるのが、我々宗教家の課題だが、応えられないときもある。わしだつて応えられないこともある。だから裸にならにやあならん。

家庭の崩壊は、心にゆとりのない親に多い。仏ホットケ、神かまうなの今日、天の理、地の理を知り、感謝することを説いてほしい。

自分一人で生きているんじやあない。物の生命を無駄にしない、大事にして徳をつむ。全ての命の大切さを説いてほしい。

日々の生活の中で、ぱつと喰いつける平易な話、今、生きている説法をせにやあならん。今、世尊が生きていたら、大蔵経を全部書き替えていたら、大蔵経を全部書こう。むづかしい禅語なんか使っちゃあいかん。

キリスト教は、祈りと労働。我々は、坐禅と祈り。坐禅ができなきゃあ汗水たらせ、裸になつて、血みどろにやれるか、やれないかが境目だ。困っている人がいたら助けてやればいい。奉仕の精神だ。青年僧の皆さんの緊要のつとめでしょう。

一番求められていることをすればいい。迷っている方があれば、そこへ行つて手を掛けてやり、老人ホームが、もつともつと多くなるでしょうから、カウンセリングをして、老人達の世話を自分達でする。悩み苦しんでいる問題のところを、引き受けてやってみるも良い。諸病を治す薬は、坐禅だと自分でわかっているのだから、医師のすすめる薬より良い薬がある



ことを教えて上げることが大切だ。体を動かして働くことは重要だが、体が不自由で動けない人に、どのようにして安心していただけるか実践してゆく場合大いに問題になる。共に悩み、同行二人で、このように、現在生きていることが救われていることを説いてほしい。それには、生きて救われていることの確かさを、自分達が持たねばできないことです。

仏さまと一緒にいるんだと言つたつて、何が仏さまかわからないという世の中ですから、その辺の良い所だけダシを掬つて、まるめて、うまくやろうとしも、うまくできない。抽象的なことを口にしても駄目だ。

お世話する気持、やる気があれば、何でもできる、やることは、いくらでもある。共に坐り、共に汗を流し、共に苦しむ、やりがいのある、しかも、今の皆さんでなければできないことばかりだ。感謝の心(仏心)の日常底であつてほしい。

本当にありがとうございます。(文責編集部)

注文仏像・紫檀製仏具・大木魚・大鑿子



株式会社

ムナ カタ 宗像商会

本店・東京支店 〒189 東京都東村山市富士見町3-2-17 ☎0423-95-8505
盛岡支店 〒020-01 盛岡市みたけ5-10-48 ☎0196-41-3955
函館支店 〒040 函館市亀田町19-18 ☎0138-43-8550

◎本手打鑿子・予約受付中!!

おかげさまで、本手打鑿子、出荷を開始しました

◎四国・松山市に支店開設!!

ご愛顧の程よろしくお願ひ致します。
〒790 松山市和泉北1-5-20 ☎0899-47-3391